

患者や避難住民守れ

災害時用の食料備蓄

製鉄室蘭病院
がんセンター

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院(前田征洋院長)は、がん診療センター内には、災害時用の非常食を備蓄した。備蓄品は、食料720

0食と2リットルペットボトルの水2300本。大規模災害発生時、同センターに避難した市民らに対応する。同院では「地域住民への医療



製鉄記念室蘭病院「がん診療センター」に備蓄された食料や水など

支援をしつかり行えるよう、準備を整えた」と話している。
「災害拠点病院」の指定を目指す同院では、2012年(平成24年)11月の胆振西部大停電時、帰宅困難になった外来患者らの避難を受け入れた。この経験を教訓に、昨年9月に完成した同センター3階を、災害時に外来患者や住民らの緊急避難所に転用できるように設計している。
さらに3階には、水や食料などを備蓄できるスペースも設けた。想定する避難者約800人の3日分にあたる食料と水を確保している。献立は、米やかゆ、乾パン、みそ汁、サンマかば焼きや牛肉の大豆煮、筑前煮など。1食470〜670倍と、栄養バランスも考慮した。
(松岡秀宜)